



雨が降らない日が続いても、どうして川の水がなくなるしないの

雨の一部は地面にしみこむ

日本は世界の中でも雨の多い国ですが、それでも、雨が毎日降ることはありません。しかし、川の水はふつう、雨が降らなくてもなくなりません。

川の上流には、木が生いしげった森が、たくさんあります。森に降った雨は、木の葉や枝をぬらし、やがてしずくとなって、地面に落ちます。

地面には、かれ葉やかれ枝、コケなどがあって、落ちてきた雨の一部は、ここにとどまり、しだいに土の中に、しみこんでいきます。かれ葉などがくさって、水がしみこみやすい、やわらかい腐葉土をつくります。

水がしみこんでいく土の中で、水は木の根などに吸われたり、土のすき間にたくわえられたりします。

地下にしみこんだ水は、水を通しやすい地層の中を、下へ下へとしみこんでいき、水を通しにくい地層の上にとまります。これを地下水といいます。

地下水が少しずつ流れ出て、川になる

地下水は、ねん土や岩石の層がかたむいていると、そのかたむきにそって、流れます。地下水が、地層の境目や割れ目などから、自然にわき出ているものがあります。これを泉といいます。

このわき水が、川の流れになったり、川の流れといっしょになったりします。わき水は急なくなることはなく、少しずつ流れ出て、川の流れになっているので、雨が降らなくても、川の水はなくなるしないのです。（監修・国司 真）

